

Adobe® Acrobat® 5.0 日本語版

オンラインに広がるドキュメント共有ベストソリューション

異機種のコピュータが混在する現在のネットワーク環境で、電子ドキュメントを確実かつ迅速にやりとりすることは企業にとっての大きな課題です。その範囲は、社内、顧客、納入業者、取引先など、将来に向けて地球規模で拡大しています。定型文書（財務報告、法的文書、マーケティング資料など）についてはやりとりする際にオリジナルと同じ体裁を保つ必要があり、また機密性の高い文書は安全にやりとりできなければなりません。ITシステムの責任者にとっては、既存のWebベースのツールやテクノロジーを生かした、柔軟で費用効率の高いソフトウェアソリューションを導入が求められています。



Adobe Acrobatが作り出すAdobe PDF(Portable Document Format)は、オンラインでドキュメントを配布するためのデファクトスタンダードとなっています。紙ベースで作業していたときと同様な感覚で電子ドキュメントを扱うことのできる操作性、高度なセキュリティ機能、企業全体への展開と統合機能を備えたAdobe Acrobat 5.0は、エンドユーザとIT責任者のどちらにとっても理想的なソリューションです。

業務効率の向上

Web上のAdobe PDFを操作する場合、Adobe Acrobat 5.0は、よりWebブラウザに統合されるようになりました。例えば、複数のクライアントが同じAdobe PDFをWebブラウザ上で表示させ、オンライン注釈機能を使って意見の交換をすることが可能です。従来、Webブラウザ上ではAdobe PDFは表示と印刷しかできませんでしたが、Adobe Acrobat 5.0ではネットワーク上のAdobe PDFに対してWebブラウザからインタラクティブな操作を行うことができるようになったわけです。企業内で、または他の企業と、さらには世界中での情報共有がスピードアップされます。

ペーパーワークの業務効率の向上に関しては提出用の定型書類の電子化が大きな課題です。帳票、人事の提出書類、経理の申請書など、いわゆるフォームが占める割合はとて多く、1人1台のコンピュータを配置しておきながら、こうしたフォームだけが手書きの紙書類のままで処理されることがよくあります。Adobe Acrobat 5.0を使えば、それまで使い慣れていた紙のフォームをスキャナからAdobe PDFに変換し、フォームフィールドを設定して電子フォームに作り変えることができます。新たにデザインする必要もなく、従来と同じ作業感覚でデータ入力が行えます。入力されたデータは基幹システムのデータベースに送り込むようにシステム構築することも可能です。これにより、紙の使用量を削減できるばかりでなく、業務効率の向上を大幅に改善できます。

信頼性の高い強力なセキュリティ機能

セキュリティはITシステムの導入時に検討される最重要課題です。しかしながら、ネットワークシステムのセキュリティだけを強化しても、情報資産としてのドキュメントがファイアウォールの外に出てしまえば、何の意味もありません。あるいはWebでの情報公開では掲載するドキュメント自身になんらかのセキュリティを施すことが必須です。

Adobe Acrobat 5.0では、現在のRC4暗号化技術で最高水準の128ビットキーをサポートしています。これにより機密性の高いドキュメントの安全を確保します。パスワード保護されたAdobe PDFドキュメントは、ネット

ワークサーバに送信したり電子メールで配布しても、第三者がファイルを開くことはできません。また、保護レベルを細かく調整することで、印刷許可、編集許可、情報の抽出許可、ページ順序編集の許可、フォームフィールド入力と電子署名書き込みの許可をコントロールすることができます。

また、Adobe Acrobat 5.0のSelf-Signセキュリティ機能では、公開鍵暗号化技術により特定したワークグループ内の何人かだけが開くことができるセキュリティを設定することができます。さらに、Self-Sign署名機能を使ってAdobe PDFに電子署名を書き込めば、ドキュメント作成者の本人性や改ざんの有無を受け取り側が確認することができ、なりすましや改ざんを防止することが可能です。

システムへの導入も容易に

Adobe Acrobat 5.0のインストーラは、一般的に会話形式で実行させますが、あらかじめ設定したパラメータに従って自動的に実行させることができます。これにより、多数のクライアントにインストール場合でも手間がかかりません。また、大規模なシステム導入支援システム(deployment system)に対応するようにも設計されており、例えば数千台のコンピュータにAdobe Acrobatを自動的にすることも可能です。

さらに、Adobe Acrobat 5.0ではMicrosoft Terminal ServicesやWindows 2000のマルチユーザもサポートしており、シンクライアント(Thin Client)の企業ユーザがネットワークリソースを使ってAdobe Acrobatの表示、印刷機能に効率的にアクセスすることができます。

効率的な保守管理とサポート

Adobe Acrobat 5.0は、多数のネットワーククライアントを管理するIT部門の保守管理に必要な時間とリソースを削減するように設計されています。各クライアントコンピュータにインストールされたAdobe Acrobat 5.0は、あらかじめ設定されたサイクルでアドビのWebサイト(www.adobe.com)にアップデートがあるかどうかを自動的にチェックします。新しいアップデートが見つかった場合には、必要に応じてクライ

アントのAdobe Acrobatを更新することが可能です。あるいは、外部からのデータダウンロードを抑制したい場合には、アドビのWebサイトの代わりにファイアウォール内の自社サーバにアクセスさせるように設定することもできます。これにより、アップデートの配布をコントロールしたり、独自のプラグインまたはサードパーティ製のプラグインをAdobe Acrobatユーザに自動的に配布することも可能です。

インフラとの統合

様々なテクノロジーを企業内の既存のITインフラに統合することは、大きな課題のひとつです。Adobe Acrobat 5.0は、XML、ODBC、あるいはJavaScriptなどの主要な業界標準のテクノロジーをサポートしています。また、OLEオートメーションもサポートしており、既存のWebベースのアプリケーション、バックエンドのデータベースとの統合やMicrosoft Officeなどのデスクトップアプリケーションと連携するツールの開発が容易です。

Adobe Acrobat 5.0はXMLをサポートします。例えば、作成されたAdobe PDFは内部にXMLメタデータを保持しており、外部のアプリケーションが参照することができます。また、Adobe PDFフォームを電子申請システムに採用した場合、入力されたデータをXMLフォーマットにしてサーバに送信することができます。あるいは、XMLデータをそのままAdobe PDFに埋め込んで送信することも可能です。

Adobe Acrobat 5.0ではJavaScriptによるプログラムを設定し、そのAdobe PDFを操作したときに特別な処理が行わせることができます。例えば、Adobe PDFを開いたときに必ず特定のメッセージを表示させたり、フォームフィールドの数値計算をさせたりなどです。さらに、Adobe PDFフォームのJavaScript機能はODBCをサポートしており、バックエンドのデータベースと直接データの交換を行うシステムの開発が可能です。

企業は、効率的で競争力のある体質にするために、Web主導型のITシステムの移行や導入を検討しています。ここでは、従来の紙ベース型のドキュメントプロセスからオンライン型に容易に移行するためのツールを必要としています。Adobe Acrobat 5.0は、ビジネスのプ

ロフェッショナルがオンラインで情報を効率的かつ生産的に共有できるようにする費用効率の高いソリューションです。容易な保守管理、強力なセキュリティ、Webや業界標準のテクノロジーをサポートしたAdobe Acrobat 5.0は、大規模な組織とそのIT責任者が日々かかえている複雑で拡大し続ける課題や要求に応えます。Adobe Acrobat 5.0 は、世界規模でのドキュメント交換のための、信頼性の高い、今後も標準であり続けるソリューションです。

必要システム構成

Windows 版

- Intel® Pentium® またはそれ以上のプロセッサを搭載したパーソナルコンピュータ
- Microsoft Windows 95 OSR 2.0 日本語版、Windows 98 日本語版、Windows Me 日本語版、Windows NT 4.0 Service Pack 5/6日本語版、Windows 2000 日本語版、Windows XP 日本語版
- 32MB 以上のRAM (64MB 以上を推奨)
- 標準インストールでは、150MB以上の空き容量のあるハードディスク (日本語、中国語、韓国語のすべてのフォントをカスタムインストールする場合には、さらに30MB以上の空き容量が必要)
- CD-ROM ドライブ

Macintosh 版

- Power Macintosh®
- Mac OS 8.6^{*1}、9.0.4、9.1 日本語版またはMac OS X^{*2}日本語版
- 仮想メモリ使用の場合には32MB 以上のRAM (64MB 以上を推奨)
- 標準インストールでは、235MB以上の空き容量のあるハードディスク (日本語、中国語、韓国語のすべてのフォントをカスタムインストールする場合には、さらに30MB以上の空き容量が必要)
- CD-ROMドライブ

*1: Mac OS 8.6の制限により一部使用できない機能があります。

*2: 一部の機能はClassicモードでのみ動作します。

製品の詳細については、

www.adobe.co.jp/products/acrobat/ を参照してください。

